



環境省
エコアクション21
認証番号0000091



未来の地球のため
私たちができること
環境活動レポート

2019

対象期間

2018年1月1日～
2018年12月31日



学校法人 郡山開成学園

発行日/2019年7月31日

CONTENTS

I. 郡山開成学園 環境方針	
環境理念、環境方針	1
II. 郡山開成学園の概要	
II-1 法人名及び組織	2
II-2 所在地	2
II-3 環境管理責任者及び事務局	2
II-4 学園規模	2
II-5 大学、短大・附属高校・附属幼稚園概要	3
III. 郡山開成学園における環境マネジメント	
III-1 環境パフォーマンスとその関連要素	4
III-2 環境への取組分野	4
III-3 環境への負荷とその関連要素	4
III-4 環境マネジメントシステム	5
IV. 環境目標及び環境活動計画	
IV-1 2018年～2020年中長期環境目標	6
IV-2 2018年環境活動計画	7
V. 環境活動結果	
V-1 環境目標達成状況及び環境活動計画実施状況	
(1) 環境負荷の対前年詳細比較	8
(2) 環境目標の達成状況評価	9
(3) 取組結果の評価	9
(4) 代表者による評価と見直し	9
V-2 トピック	10
V-3 各部門の取組み	11～16
V-4 緊急事態対応	16
V-5 郡山女子大学・同短期大学部における地域連携活動	17～18
VI. 次年度の取組み	18
VII. 環境関連法規等一覧及びその遵守状況確認結果	19
VIII. 環境活動結果に関する内部監査及び評価	
(1) 内部監査	20
(2) 代表者による全体の取組状況の評価及び見直しの結果	21

I. 環境方針

学校法人郡山開成学園 理事会承認
2002年 9月12日制定
2017年 7月28日最終改定

環境理念

学校法人 郡山開成学園は、教育研究をはじめとするあらゆる活動を通じ、地球環境との調和・共存と持続的に発展可能な循環型社会の構築に寄与するため、全学挙げて環境保全活動に積極的に取り組む。

環境方針

1. エコマインドを持った学生・生徒の育成並びに関連教育研究の推進

環境活動に積極的に取り組むエコマインドを持った学生・生徒の育成が急務であることから、人類の福祉及び地球環境保全に貢献できる人材を育成し、また、これらに関わる教育研究活動を行う。

環境マインドを持った学生、生徒を育てます。

環境意識向上

2018年度目標

「社会の中で率先して環境問題に取り組む人づくり」を目指す。
各部門において、環境マインドを高める為の取組を推進していく。

2. 教育研究活動における環境負荷の削減

教育研究活動にともなう環境負荷を低減する目標に向かって、全学を挙げて、省エネルギー、省資源、廃棄物の抑制と再資源化などに積極的に取り組む。

CO₂ 排出量を削減し地球温暖化にブレーキをかけます。

CO₂ 排出量
1.0% 以上削減

2018年度目標

年間 12t の CO₂ 排出量削減を達成します。

ゴミを減らすのではなくゴミを出しません。

ゴミ排出量
2.0% 以上削減

2018年度目標

年間 1.0t の一般廃棄物削減を達成します。

水や紙を大切に使う心を育てます。

水使用量
1.0% 以上削減

2018年度目標

年間プール一杯分 (309m³) の水使用量削減を達成します。

紙使用量
1.0% 以上削減

年間コピー用紙 118kg相当の紙使用量削減を達成します。

3. 法規制の遵守

環境関連の法規制を遵守するとともに、環境汚染の予防を図り、自然環境の保全、再生に協力する。

4. 環境関連情報の公開とコミュニケーションの推進

環境理念、環境方針、環境目標、環境活動計画及びその実績等の環境関連文書やホームページ等を通じて、学内の学生、生徒、教職員や一般社会へ積極的に公開する。

5. 地域貢献

環境分野に関するボランティア活動（日本環境協会主催のどんぐりプロジェクト及び、郡山市主催のごみゼロキャンペーンへの参加、空間放射線量や食品中に含まれる放射性物質の測定、包括連携協定を締結した市町村等との連携活動、並びに学園施設の一般開放等）を通じ、地域に貢献する。

地域貢献

地域から
愛される学園へ

2018年度目標

環境分野に関するボランティアや包括連携協定を締結した市町村等との連携活動を通じ、地域へ貢献する

Ⅱ. 郡山開成学園の概要

Ⅱ-1 法人名及び組織

法人名：学校法人 郡山開成学園
代表者：理事長 関口 修

■組織

郡山女子大学 : 学長 関口 修
郡山女子大学短期大学部 : 学長 関口 修
郡山女子大学附属高等学校 : 校長 佐々木貞子
郡山女子大学附属幼稚園 : 園長 賀門 康博

Ⅱ-2 所在地

〒963-8503 福島県郡山市開成3丁目25番2号

Ⅱ-3 環境管理責任者及び事務局

環境管理責任者 / 郡山開成学園 法人事務局 管財部
部長 緑川 洋一 (環境委員会委員長)
TEL : 024-933-1955
FAX : 024-933-1955
kanzai@koriyama-kgc.ac.jp
環境委員会事務局 / 郡山開成学園 法人事務局 管財部
係長 安斎 文明
TEL : 024-933-1955
FAX : 024-933-1955
kanzai@koriyama-kgc.ac.jp

Ⅱ-4 学園規模

学生数 (大学・短大)	894人
生徒数 (附属高校)	450人
園児数 (附属幼稚園)	145人
教職員数	191人
敷地面積	190,569㎡ (57,647坪)
延べ床面積	50,948㎡ (15,412坪)

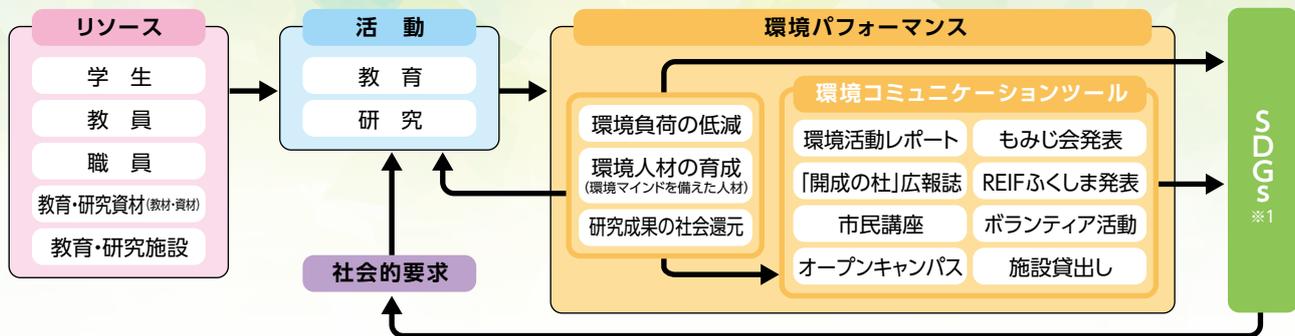
(令和元年5月1日現在)

II-5 大学,短大・附属高校・附属幼稚園概要

区分	学科・専攻等	取得できる免許・資格	
大学院	人間生活学研究科 新しい時代には、新しい学問が要求されます。 「人間守護」の理念を中心に、人間生活について総合的かつ専門的に学びます。	●中学校及び高等学校専修免許状（家庭）	
大学 家政学部	人間生活学科 ■生活総合コース 自らの生きる地域や社会で活躍・貢献できる企業・教員・公務員等の職業を選択でき、卒業生は幅広い就職先で活躍中です。	●高等学校教諭一種免許状（家庭） ●中学校教諭一種免許状（家庭）	
	■福祉コース 社会福祉士、介護福祉士資格の両方を持った福祉の専門家を育てます。	●社会福祉士（受験資格） ●介護福祉士（受験資格） ●高等学校教諭一種免許状（福祉・家庭） ●中学校教諭一種免許状（家庭）	
	■建築デザインコース 女性の感性を活かして、自然と共生可能な空間を美しく設計し、創造できる女性建築士を育成します。	●一級及び二級建築士（受験資格） ●福祉住環境コーディネーター ●商業設備士 ●高等学校教諭一種免許状（工業・家庭） ●中学校教諭一種免許状（家庭）	
	食物栄養学科 食品の安全性と健康維持をはかる管理栄養士を養成。 社会や食生活の多様化・国際化に対応できる総合的な指導者を目指します。	●管理栄養士（国家試験受験資格） ●栄養士免許 ●栄養教諭一種免許状 ●食品衛生管理者と食品衛生監視員（任用資格）	
短期大学部	健康栄養学科 健康で豊かな食生活をすすめる「栄養士」と、食品業界にかかわる「フードスペシャリスト」を養成。人々の健康をサポートする食と栄養の知識と技術を身につけます。	●栄養士免許 ●管理栄養士国家試験受験資格（実務経験3年） ●フードスペシャリスト受験資格 ●専門フードスペシャリスト受験資格	
	幼児教育学科 ■幼児教育コース 幼稚園教諭二種免許状と保育士資格の両方を取得することができます。多彩なフィールドワークを通して実践力を養い、子どもに寄り添える保育者を目指します。	●幼稚園教諭二種免許状 ●保育士資格	
	■チャイルド・ミュージックコース 音楽に関する専門的な知識や技術を学び、より豊かな音楽表現力を養い音楽の美しさや楽しさを伝えることができる保育者を目指します。	●幼稚園教諭二種免許状 または ●保育士資格	
	地域創成学科 地域連携教育を中心とした多様な学びにより創造力や表現力、コミュニケーション能力を伸ばし、地域の発展に取り組む力を身につけます。	●文化・歴史系：司書、学芸員補（任用資格） ●アート&デザイン系：色彩士検定、Illustrator、Photoshop、Webクリエイター ●ビジネス・情報系：情報処理士、ITパスポート、MOS検定、日商PC、ICTプロフィシエンシー検定、社会福祉主事（任用資格）	
専攻科 文化学専攻 人間の生きた証しである歴史の知識を体系化、深化させるとともに豊かな人間性を培い、総合的な判断力を養います。	●学士（文学）（大学改革支援・学位授与機構） ●学芸員（任用資格）		
附属高等学校	普通科 個々の特性に合わせて、全教科にわたって幅広く学習します。1年次は、共通カリキュラムで学習し、基礎学力の充実を図ります。2年次からは、自分の進路や適性に合わせて、I型（文系）、II型（理系）に分かれて学習します。		
	音楽科 一般教科目を精選し、専門課程を強化しながら、各専攻（ピアノ、弦楽器、管楽器、声楽）に分けて、音楽の才能教育を行う県内唯一の学科です。		
	美術科 絵画、工芸、デザイン等の専門知識を深め、美に対する感覚と技術の向上を目指す県内唯一の学科です。		
	食物科 栄養、食品、食品衛生等の専門知識や高度な調理技術、技能を身につけ、食文化の継承者として地域社会に貢献する調理師を育てます。	●調理師免許	
附属幼稚園	年長組 (5歳児)	●お子さんをよりのばすために、一人ひとりを尊重して、それぞれの発達、個性に合わせて保育します。 ●よい成長のために大学の専門の先生と連携を取りながら保育を進め、また各教室（おと・うごき・ことば教室、英語教室）や子育て相談（発達相談）を行います。 ●幼稚園と家庭が一体となってお子さんの成長を助けるため「父母の講座」などを行います。	
	やなぎ組		
	まつ組		
	年中組 (4歳児)		
	さくら組		
つつじ組			
年少組 (3歳児)	たんぽぽ組		
すみれ組			
2~満3歳児	つくし組		
れんげ組			

Ⅲ. 郡山開成学園における環境マネジメント

Ⅲ-1 環境パフォーマンスとその関連要素



※ 1 SDGs [持続可能な開発のための 2030 アジェンダ]

Ⅲ-2 環境への取組分野

大項目	中項目
1. 事業活動へのインプットに関する項目	1) 省エネルギー
	2) 省資源
	3) 水の効率的利用及び日常的な節水
	4) 化学物質使用量の抑制及び管理
2. 事業活動からのアウトプットに関する項目	1) 温室効果ガスの排出抑制、大気汚染等の防止
	2) 廃棄物等の排出抑制、リサイクル、適正処理
	3) 排水処理
	4) その他生活環境に係る保全の取組等
3. 製品及びサービスに関する項目	1) グリーン購入
	2) サービスにおける環境配慮
4. その他	1) 生物多様性の保全と持続可能な利用のための取組
	2) 環境コミュニケーション及び地域貢献
	3) 施主・事業主における建築物の増改築、解体に当たっての環境配慮

Ⅲ-3 環境への負荷とその関連要素

環境への負荷		もとなる活動・設備	
二酸化炭素排出	化石燃料	購入電力	空調、照明、OA機器、教育研究機器
		灯油	暖房（体育館）
		A重油	ピークカット発電
		都市ガス	空調、厨房
		LPガス	空調、風呂
		ガソリン	学園車両等
廃棄物排出	一般廃棄物	軽油	園児送迎車両等
		白上質紙	教育、研究
		新聞紙	図書館等
		段ボール	納入品包装
		その他の紙	シュレッダー、雑誌
		缶	自動販売機
	産業廃棄物	ペットボトル	自動販売機
		厨房ゴミ	学生食堂、調理実習、寮給食
		汚泥	グリストラップ
	特別産廃	金属くず	廃自転車
		廃食用油	調理実習
		廃油	実験実習
	廃酸、廃アルカリ	実験実習	
水使用		トイレ、手洗い、飲料	
化学物質		実験、実習	
物質使用（コピー用紙）		教育研究	

Ⅲ - 4 環境マネジメントシステム

■エコアクション 21 認証・登録



■エコアクション 21 とは

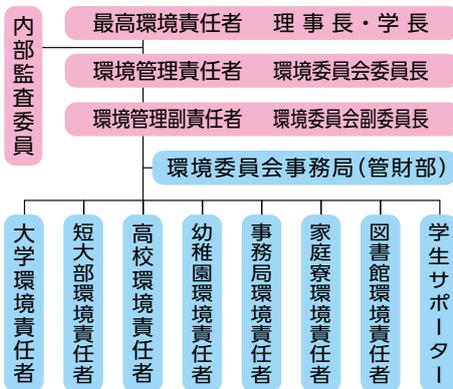
エコアクション 21 認証・登録制度は、広範な中小企業、学校、公共機関などに対して、「環境への取組を効果的・効率的に行うシステムを構築・運用・維持し、環境への目標を持ち、行動し、結果を取りまとめ、評価し、報告する」ための方法として、環境省が策定したエコアクション 21 ガイドラインに基づく、事業者のための認証・登録制度である。

本学園は 2004 年 12 月 24 日教育機関では全国初となるエコアクション 21 認証・登録を受け 2018 年 12 月 4 日に 7 回目の更新審査を完了した。



全組織・全活動

■実施体制



■役割

最高環境責任者 (理事長・学長)	<ul style="list-style-type: none"> 環境方針を定め、教職員に周知する。 環境方針を毎年 1 月に見直し、必要があれば改訂する。 EA21 を効率的に実施するために環境委員会、環境委員長、副委員長、及び環境委員の任命を行い実施体制を構築し、役割と責任を定め、全教職員に周知する。 毎年 3 月に実施体制を見直し、必要に応じて変更を行う。 代表者は毎年 1 月に前年度の EA21 の取組状況を評価し、全体的な見直しを行い、修正が必要な場合には環境委員会委員長に指示を行う。(年 1 回)
内部監査委員	<ul style="list-style-type: none"> 毎年 11 月に環境経営システムが EA21 ガイドライン要求事項に合致しているか検証する。 その環境経営システムに有効性があるか、また、環境経営システムに定められている活動内容が環境方針、環境目標の達成に適切なものとなっているか検証する。 内部監査チェックリストにより行う。
環境委員会 (委員長、副委員長、委員)	<ul style="list-style-type: none"> 環境方針、環境への負荷及び環境への取組状況のチェック結果を基に環境目標を策定し、達成のための活動を行う。 毎年 1 月に前年度の達成状況を把握・評価し、必要により見直しを行う。 毎年 1 月に環境目標を達成させるための単年度ごとの環境活動計画を作成し、実行する。 3 ヶ月ごとに実施状況と実績を把握し、評価する。 実施状況に問題がある場合は是正処置を行い、次年度の計画策定に反映させる。
環境委員会事務局 (管財部)	<ul style="list-style-type: none"> 毎年 1 月に前年度の事業活動に伴う環境負荷を調査し、「環境への負荷の自己チェック表」を完成させ、見直しをする。 毎年 1 月にチェック表による法令等の遵守状況を確認する。 EA21 を適切に実行するために EA21 の意識と概要の教育及び、必要場合は訓練を実施する。 毎年環境活動レポートを作成し、理事長、学長の確認を得て公表する。 EA21 の実施に必要な文章を作成し、保管する。 EA21 の取組に係る記録等を作成する。 作成された記録を集め、整理し、保管する。
学生サポーター (ケチュラライフスタイル部:以下NLS部) (郡山女子大学エコレンジャー)	<ul style="list-style-type: none"> NLS 部員は環境委員会サポーターとして環境活動に協力する。 郡山女子大学エコレンジャーは eco 検定受験対策講座のサポーターとして環境委員会に協力する。

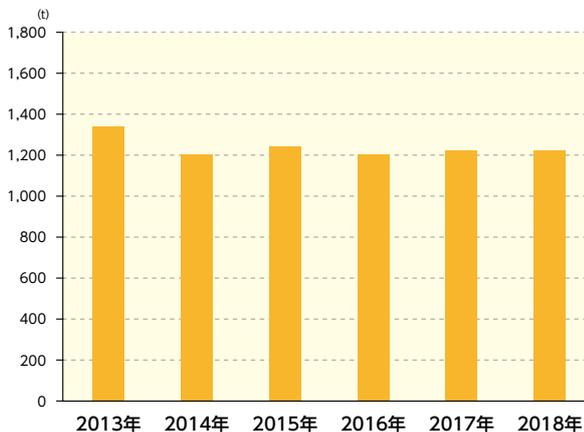
Ⅳ. 環境目標及び環境活動計画

Ⅳ-1 2018年～2020年中長期環境目標

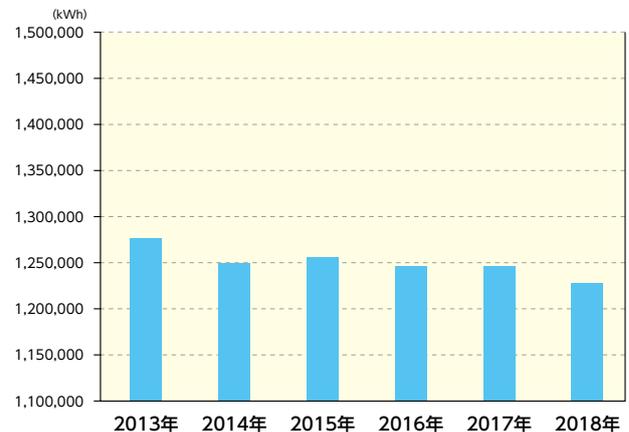
本学園は、以下7つの主項目に対し、目標値を掲げて環境活動に取り組んでいる。

項目	単位又は区分	基準年実績	2018年目標値	2019年目標値	2020年目標値		
		2017年 1月～12月	2018年 1月～12月	2019年 1月～12月	2020年 1月～12月		
エコマインドを持った 学生、生徒の育成	eco 検定 受験講座	受講者数 15 名 合格者数 5 名	受講者数 10 名 合格者数 5 名	受講者数 10 名 合格者数 5 名	受講者数 10 名 合格者数 5 名		
	環境関連図書購 入数	環境関連図書購 入数 25 冊	25 冊	25 冊	25 冊		
	学生、生徒の環 境関連サークル 活動支援	NLS 部 部員数 35 名	35 名	35 名	35 名		
一酸化炭素排出量の削減	電力使用量	kWh	1,288,387	1,275,503 (-1.0%)	1,262,619 (-2.0%)	1,249,735 (-3.0%)	
	化石燃料使用量	都市ガス	m ³	51,509	50,993 (-1.0%)	50,478 (-2.0%)	49,963 (-3.0%)
		LP ガス	m ³	91,222	90,309 (-1.0%)	89,397 (-2.0%)	88,485 (-3.0%)
	CO ₂ 排出量	Kg-CO ₂	1,238,205	1,225,822 (-1.0%)	1,213,440 (-2.0%)	1,201,058 (-3.0%)	
水使用量	m ³	30,932	30,622 (-1.0%)	30,313 (-2.0%)	30,004 (-3.0%)		
紙使用量	kg	11,839	11,720 (-1.0%)	11,602 (-2.0%)	11,483 (-3.0%)		
一般廃棄物排出量 (可燃ごみ)	kg	103,330	102,296 (-1.0%)	101,263 (-2.0%)	100,230 (-3.0%)		
化学物質の適正管理	—	化学物質の 適正管理	年 1 回の保管状況 調査により適正管理	年 1 回の保管状況 調査により適正管理	年 1 回の保管状況 調査により適正管理		
グリーン調達の推進	取扱消耗品 (280 品目) のグリーン 適合品	269 品目 (96.1%)	270 品目 (96.4%)	271 品目 (96.8%)	272 品目 (97.1%)		

(電気事業者名：(株)エネット、実排出係数 0.418kg-co₂/kWh)



二酸化炭素排出合計



電力消費

IV-2 2018年環境活動計画

方針	目 標	目標達成手段	責任部門	スケジュール												
			実施部門	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	
学生、生徒の育成 エコマインドを持った	各部門において、環境マインドを高めるための取組を推進していく	各環境委員による積極的なリーダーシップのもと実施	環境委員長 ----- 各環境委員						開始				開始			
排出量削減 二酸化炭素	電力の削減 電力量 12,883kWh 2017年度基準年比 削減率-1.0% 都市ガス、LP ガスの削減 都市ガス 515m ³ LP ガス 912m ³ 2017年度基準年比 削減率-1.0%	・節電対策 ・BEMSによる見える化(本部キャンパス) ・不要照明の消灯 ・待機電力の削減 ・クールビズ運動(冷房 28℃) ・ウォームビズ運動(暖房 20℃)	環境委員会 事務局 ----- 管財部	説明 導入 運用 実施 実施 策定												
排出量削減 廃棄物	一般廃棄物の削減 一般廃棄物量 1,033kg 2017年度基準年比 削減率-1.0%	・一般廃棄物削減目標説明 ・学内 LAN の有効利用(文書の電子化 E-mail) ・裏白使用、両面コピー、印刷の徹底 ・分別の徹底による再資源化量増加	環境委員会 事務局 ----- 管財部	説明 実施 実施 実施												
節 水	水の削減 水使用量 309m ³ 2017年度基準年比 削減率-1.0%	・水削減目標説明 ・トイレ擬音装置使用の徹底 ・無駄水削減の徹底 ・漏水の早期発見	環境委員会 事務局 ----- 管財部	説明 実施 実施 実施												
紙削減 紙使用量	紙の削減 紙使用量 118kg 2017年度基準年比 削減率-1.0%	・学内 LAN の有効利用(文書の電子化 E-mail) ・裏白使用、両面コピー、印刷の徹底	環境委員会 事務局 ----- 管財部	説明 実施 実施												
グリー ン 購 入	消耗品 280 品目をグリーン購入法適合品に変更する	・消耗品のグリーン購入 ・家電機器、OA 機器等はエネルギー効率の高い機器を購入	管財部													
化学 理 薬 品	PRTR 対象物質並びに毒物、劇物の保管、管理を適正に行う	・年 2 回 PRTR 法対象物並びに毒、劇物の保管、管理状況調査を行う	環境委員会 管財部													
年 間 活 動 計 画	○ 環境教育 ○ 緊急事態対応訓練 ○ 環境関連法規等の遵守評価 ○ 代表者による評価と見直し ○ 環境活動レポート	環境目標、活動計画の周知 安全防災訓練 法令遵守 第三者評価 作成と地域事務局への提出	環境委員会 事務局 ----- 防災管理 委員会	○												

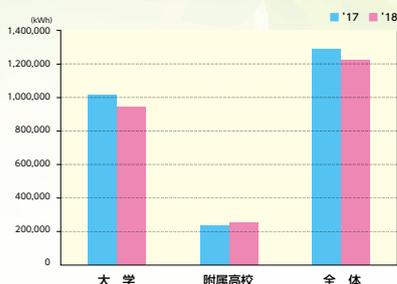
実績：●(実践) 月次、累計とも達成○/月次又は累計が達成△/月次、累計とも未達成×
 ・環境管理責任者は3ヶ月ごとに確認し、取り組みに問題がある場合には指示を行う。
 ・代表者は、環境管理責任者の報告を受け必要に応じて指示を行う。

V. 環境活動結果

V-1 環境目標達成状況及び環境活動計画実施状況

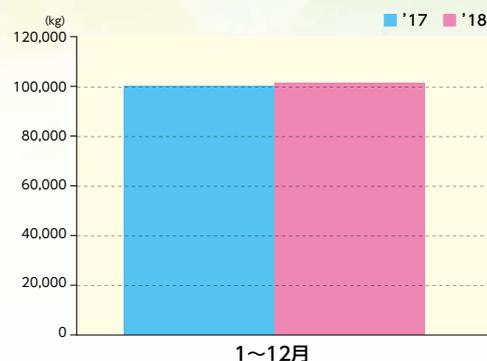
(1) 環境負荷の対前年詳細比較

■ 電気使用量



評価 電気使用量は対前年度省エネ対策(蛍光灯→LED化)により61,764kWh(-4.80%)減少

■ 一般廃棄物排出量



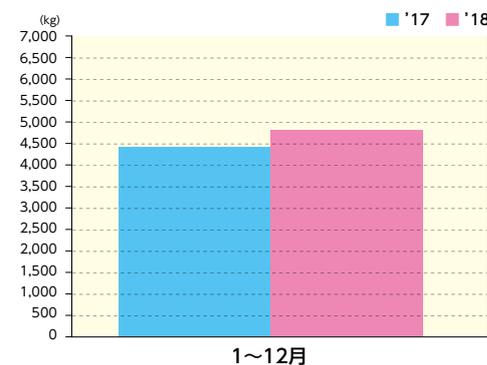
評価 リサイクルのマンネリ化により、一般廃棄物量の対前年度比2,040kg(+1.97%)の増加

■ 都市ガス使用量



評価 都市ガス使用量は、フェリーチェリの営業により増加したが、全体的には減少により、対前年比1,940m³(-3.76%)の減少

■ 生ごみ処理量



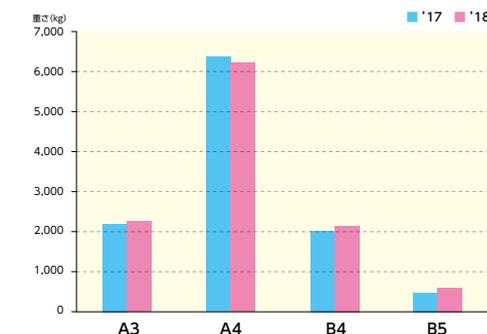
評価 学生食堂フェリーチェの本格稼働と寮生増加により、生ごみ処理量が対前年度比364kg(+8.20%)の増加

■ LP ガス使用量



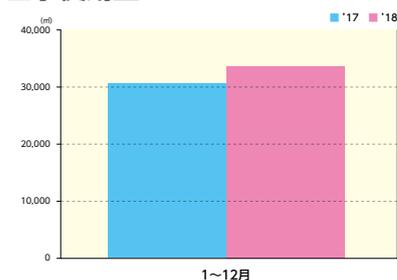
評価 夏季の猛暑による冷房期間延長のため、LPガス使用量は対前年比2,367m³(+2.59%)の増加

■ 紙使用量



評価 A3・A4サイズの使用の増加により、対前年比243kg(+2.05%)の増加

■ 水使用量



評価 学生・生徒・園児及び寮生の増加に伴い、水使用量の対前年度比2,894m³(+9.35%)の増加

(2) 環境目標の達成状況評価

2018年における環境目標の達成状況は、下表のとおり。エコマインドを持った学生、生徒の育成については、eco検定受験対策講座、環境関連図書購入数及び、NLS部員数の増員に係る環境目標は達成できたが、環境負荷の削減に係る環境目標については、CO₂排出量・水使用量・紙使用量及び、一般廃棄物排出量は対前年比を超過した。又、化学物質の適正管理、グリーン調達推進の推進は環境目標を達成した。

表：環境目標及びその達成状況（期間 2018年1月～12月）

項目	単位又は区分	基準年実績	2018年目標	2018年実績	達成状況 達成 ○ 未達成 ×		
		2017年 1月～12月	2018年 1月～12月	2018年 1月～12月			
エコマインドを持った 学生、生徒の育成	eco検定受験講座	受講者数 10名 合格者数 5名	受講者数 10名 合格者数 5名	受講者数 15名 合格者数 5名	○		
	環境関連図書購入数	環境関連図書数 25冊	25冊	25冊	○		
	学生、生徒の環境関連 サークル活動支援	NLS部員数 35名	35名	35名	○		
排出量の削減	電力使用量	kWh	1,288,387	1,275,503 (-1.0%)	1,226,623 (-4.8%)	○	
	化石燃料 使用量	都市ガス	m ³	51,509	50,993 (-1.0%)	49,569 (-3.8%)	○
		LPガス	m ³	91,222	90,309 (-1.0%)	93,588 (+2.57%)	×
	CO ₂ 排出量	Kg-CO ₂	1,238,205	1,225,822 (-1.0%)	1,240,812 (+0.2%)	×	
水使用量	m ³	30,932	30,622 (-1.0%)	33,826 (+9.4%)	×		
紙使用量	kg	11,839	11,720 (-1.0%)	12,082 (+2.1%)	×		
一般廃棄物排出量 (可燃ごみ)	kg	103,330	102,296 (-1.0%)	105,370 (+2.0%)	×		
化学物質の適正管理	-	化学物質の 適正管理	年1回の化学物質の保管 状況を適正に調査し、 厳格に管理を行った	年1回の化学物質の保管 状況を適正に調査し、 厳格に管理を行った	○		
グリーン調達推進	取扱消耗品(280品目) のグリーン適合品	269品目(96.1%)	270品目(96.4%)	270品目(96.4%)	○		

(3) 取組結果の評価

- エコマインドを持った学生、生徒の育成
 - eco検定受験講座
平成24年に再開したeco検定受験講座の見直しを行い、演習を中心とした方式として、15名が受講し6名が第24回eco検定試験を受験したところ5名が合格し環境目標を達成した。
 - 環境関連図書購入数は、25冊で対前年度比同数となり環境目標を達成した。
 - 学生、生徒の環境サークル活動支援
NLS部員数を35名に増員する目標に対して、部員数は35名で、環境目標を達成した。
- 二酸化炭素排出量の削減
二酸化炭素排出量に係る環境目標を、基準年実績1,238,205kg-CO₂の1.0%減の1,225,822kg-CO₂以下とした。実績は、1,240,812kg-CO₂で対前年比+0.2%の増加となり環境目標を達成できなかった。
- 水使用量の削減
水使用量に係る環境目標を、基準年実績30,932m³の1.0%減の30,622m³以下とした。実績は、33,826m³で対前年比+9.4%の増加となり環境目標を達成できなかった。
- 紙使用量の削減
紙使用量に係る環境目標を、基準年実績11,839kgの1.0%減の11,720kg以下とした。実績は、12,082kgで対前年比+2.1%の増加となり環境目標を達成できなかった。
- 一般廃棄物排出量の削減
一般廃棄物排出量に係る環境目標を、基準年実績103,330kgの1.0%減の102,296kg以下とした。実績は、105,370kgで対前年比、+2.0%の増加となり環境目標を達成できなかった。
- 化学物質の適正管理
化学物質に係る環境目標を、毒物・劇物、向精神薬、核原料物質、病原性微生物、PRTR対象物質、危険物等化学物質の保管状況を各関係法に則り厳格に管理している。
実績は、化学物質取扱者と円滑なコミュニケーションを取りながら各関係法に則り厳格に管理する事ができ環境目標を達成できた。
- グリーン調達推進
グリーン調達に係る環境目標を、購買部取扱消耗品類280品目中270品目(96.4%)をグリーン購入適合品にすることとした。実績は、270品目(96.4%)がグリーン購入適合品となり、環境目標を達成した。

(4) 代表者による評価と見直し

平成30年11月16日降矢事務局長より、エコアクション21認証登録後15年を経過し、電気・化石燃料・水使用量などの使用量削減はすでに限界にきているが、問題点を洗い出し対応するよう指示有。

V-2 トピック

■若手・女性研究者奨励のため寄付金付自動販売機を増設

前年度に引き続き、日本私立大学振興・共済事業団が創設した若手・女性研究者奨励のための寄付金付自動販売機1台を83年館3階廊下に増設した。



■芸術館8講義室用蛍光灯照明をLED化(5ヵ年計画の2年目)

芸術館8講義室用蛍光灯照明をLED照明に変更することにより、芸術館の電気使用量を35%削減する事に成功した。



■附属高等学校 校舎 生徒用トイレ洋式化工事(3年計画の1年目)

普通教室東棟1階～3階生徒用和式トイレを洋式トイレに更新し、水使用量の削減を図った。
来年度は、普通教室西棟1階～3階生徒用和式トイレを洋式化する。



■タンクステンコートによる貯水槽再生(7年計画の4年目)

経年劣化による老朽化が甚だしくなった家政学館屋上の高架水槽をタンクステンコート施工により再生した。産業廃棄物の発生を抑え、省資源化につながった。



■学園内第2次～第5次除染埋設汚染廃棄物の掘出し撤去工事完了

平成30年10月8日～11月30日において、除染埋設廃棄物98.31㎡(講堂アスファルト防水層/フレコン115袋)を大学運動場より掘出し、産業廃棄物処理施設へ運搬処分した。

指定廃棄物扱いの人工芝及び汚泥10㎡を搬出し、前処理(詰め替え脱水等)を行った後、郡山市河内埋立処分場の指定場所に運搬した。



【外部評価】

■第21回環境コミュニケーション大賞優良賞

■郡山市農業奨励賞

JA福島さくらとの包括連携協定を締結し、学園が郡山市内での農業活動に貢献した。



V-3 各部門の取組み

■ 郡山女子大学

● 飯舘村ごちゃまぜワークショップへの参加（人間生活学科）

平成 30 年度、6 月と 10 月に行われた飯舘村ごちゃまぜワークショップへ人間生活学科福祉コースの学生と教員が参加しました。これは、医療・保健・福祉・栄養の分野を志す学生が、飯舘村の地域住民や行政職員等と交流し、幅広い視点で村の振興を考えることを目的としたものです。

フィールドワークでは、平成 30 年 4 月から村内でスタートした小学校を視察しました。

また、震災後も避難はせず、村にとどまることを選択した特別養護老人ホーム「いいたてホーム」では、施設長から原発事故後に伴う職員の不足で定員を縮小して受け入れていること、デイサービスは休止しているなどの厳しい状況について説明を受けました。

さらに、飯舘村について理解を深めるため、村長の講演を聞いたり、福島民報社浜通り創生局長から、被災地の現状と課題について説明を受けました。

村民とのふれあいミーティングでは、普段大学で学んでいることを活かし、ハンドマッサージや栄養相談などを体験しました。

これらをベースに、「村の元気を 10 倍にする方法」というメインテーマ実現のために、村民と学生が 6 グループに分かれて、「村人の心を明るくする秘密兵器」、「身体健康増進」、「子どもたちの育成」、「住環境の改善」、「雇用を創造」などの領域ごとに議論を深め、提案を行いました。福祉の現場では、福祉の専門職だけでなく、多職種が連携して、お一人お一人を支えています。大学で学んでいる多職種連携の重要性を実感したワークショップでした。



村内でスタートした小学校



村民と学生とのグループワーク



復興のシンボル道の駅までい館



特別養護老人ホームいいたてホーム



アロマオイルでハンドマッサージ



グループワークの成果発表

● 郡山市の水道水について（食物栄養学科）

郡山市の水道水は簡易水道を除き、阿武隈川を境に西側では猪苗代湖浜路浜を水源とする堀口浄水場管轄区域と、東側では大滝根川さくら湖を水源とする荒井浄水場管轄区域の二系統があり、これらを対象にした。本調査では郡山市に在住する大学生の住宅の給水栓の水質調査結果を報告する。

調査は 2018 年 9 月 17 日から 9 月 27 日の期間、郡山市内の 17 地点から各 2 リットル採水した水道水を試料とした。水質分析項目は pH、導電率、濁度、溶存酸素、水温、塩分、全溶存固形物量、海水比重、酸化還元電位はマルチ水質モニタリングシステム (HORIBA)、NH₄ (アンモニウムイオン)、NO₂ (硝酸イオン)、NO₃ (亜硝酸イオン) PO₄³⁻ (リン酸塩)、Glu (グルコース)、Fe (鉄)、SO₄²⁻ (硫酸塩)、残留塩素はパックテスト (共立理化学研究所) を用いた。Na⁺、K⁺、Ca²⁺ はイオンメーター (HORIBA) を用い測定した。大腸菌群数は混釈法でデゾキシコレート培地 (日水製薬) を用い計測した。

水道水水質基準	塩瀬町	二種町	喜久保町	片平町	開成4丁目	龜田	郡久山町	喜久保町
pH	5.8~8.6	6.64	6.53	6.73	6.64	6.94	6.64	6.76
導電率	0.2mS/cm以下	0.05	0.05	0.05	0.05	0.05	0.05	0.05
硝酸窒素及び亜硝酸窒素	10mg/l	0.41	0.42	0.41	0.51	0.41	0.41	0.41
残留塩素	1mg/l 程度以下	0.15	0.1	0.1	0.15	0.4	0.1	0.1
大腸菌群	検出されない	陰性	陰性	陰性	陰性	陰性	陰性	陰性

水道水水質基準	喜久保	緑ヶ丘	安積町荒井	八山町	喜久保	安積町堀川	徳定	緑ヶ丘
pH	5.8~8.6	6.83	6.75	6.83	6.66	7.86	6.67	6.77
導電率	0.2mS/cm以下	0.05	0.05	0.05	0.05	0.05	0.05	0.05
硝酸窒素及び亜硝酸窒素	10mg/l	0.41	0.41	0.41	0.41	2.21	0.41	1.51
残留塩素	1mg/l 程度以下	0.3	0.1	0.1	0.3	0.1	0.1	0.1
大腸菌群	検出されない	陰性	陰性	陰性	陰性	陰性	陰性	陰性

表1
郡山市内の水道水の水質調査結果

距離	残留塩素	Ca ²⁺	SO ₄ ²⁻
5km	0.15	22	12
10km	0.13	20	16
15km	0.16	19	18

表2
堀口浄水場から5kmごとの水質

水質調査結果を表 1 に示した。以上の結果より、浜路浜と逢瀬町の窒素やリン酸イオンは浄水後に除去されていたが、Na⁺ の数値は上昇していた。このことから Na⁺ は浄水場で次亜塩素酸ナトリウムを添加しているため上昇したと考えられた。また、緑ヶ丘の全窒素が高い値を示したのは、緑ヶ丘の水源である大滝根川の上流に畜産場があることが水道水の水質に影響していたと考えられた。さらに、逢瀬町の SO₄²⁻ が高い値を示したのは、猪苗代湖に流入する水源の一つである安達太良の沼尻の硫黄が猪苗代湖に流入したことが影響していると考えられた。また、SO₄²⁻ は堀口浄水場から距離が長くなるほどその濃度が上昇する傾向が認められた。徳定での大腸菌群の検出に関しては、水源が敷地内の井戸水で簡易フィルターを通したものであったことが原因と思われる。

以上の結果から水道水の水質は水源の水質に大きく関わっており、地域産業と密接に関連しているということ、私たちは水道水を信頼しているが、浄水場で除去できる物質と除去することが難しい物質があることがわかった。

■ 郡山女子大学短期大学部

短期大学部ではエコマインドを持った学生、生徒の育成並びに関連教育研究の推進、教育研究活動に伴う環境負荷の削減、地域貢献を目的として、授業の中に環境教育を取り入れている。それぞれの学科での取り組みを報告する。

● 健康栄養学科

集団給食実習関連のエコクッキング

● 幼児教育学科

幼児教育学科の2年生が中心となってガーデニング同好会が結成された。

● 地域創成学科

地域創成学科では地域創成ゼミナール、地域創成プロジェクト演習などで地域の施設などと協力し、地域環境の魅力発信の方法などを模索している。

ボランティアを授業に取り入れ国立磐梯自然の家などの活動に協力している。

地域活動を行うための学問的背景として、歴史学、宗教学、考古学などを学ぶ。その中で環境と人間の関係についても学ぶことになる。

● 専攻科文化学専攻

「日本の考古学」「考古学特論」「考古学演習」では短期大学で学んだ考古学の基礎をもとにして実際の研究成果を学び、演習では発掘調査に参加し、資料整理、分析を行う。「文化人類学」は放送大学開講科目であるが、人類と環境の関係についてさまざまな民族の事例が論じられている。



【健康栄養学科】



【幼児教育学科】



【地域創成学科】



【地域創成学科】



【専攻科文化学専攻】

■ 郡山女子大学附属高等学校

● 環境活動…整備委員会の生徒たちが中心に自発的にできるエコ活動について話し合い、全校生に呼びかけ取り組んできました。

① 節水・節電…ポスターによる啓発や LED 照明導入



② リサイクル活動…紙、空缶、ペットボトルのリサイクル
キャップ回収による子どもポリオワクチン活動



③ 食育活動…農業体験、減るしいレシピコンクールへの出展



④ せせらぎ小路の清掃活動



⑤ 花壇への花の植栽



⑥ 地域の行事（うねめ祭り）への参加



整備委員会を中心に、これからもエコ活動を推進してまいります。

■ 郡山女子大学附属幼稚園

○プランターで野菜の栽培



○はじめての田植えと収穫の喜び



○学園の梅を使って梅漬け



○さつまいものお世話・収穫



○子どもたちにとっては「自然」も「雑材」も遊び道具！



○キッズガーデン参加



○グリーンカーテン



■ 家庭寮

● 家庭寮の取り組み

下記7項目について寮生・職員共に協力し取り組んでいる。



■ 寮生数

寮生数(許容数)	1号館(36名)	2号館(80名)	合計(116名)
大学生	18名	8名	26名
短大生	16名	30名	46名
高校生	—	19名	19名
計	34名	57名	91名

① 節電・節水の呼びかけ

設置器具は全て省エネ対応となっている。
必要のない電気は消す、コンセントを抜くことで更に節電した。



② 「エコキャップ」収集運動への参加

今年度で8年目の活動となる。



③ ゴミの分別



④ 古紙回収ボックスの設置

購買雑誌リユース



⑤ 環境対策

- ・寮内美化 (毎日の清掃、大掃除の実施)
- ・屋内消毒 (年3回業者により実施)
- ・排水溝清掃 (年4回業者により実施)
- ・玄関前プランター植栽



⑥ 安全管理

- ・避難訓練の実施
春季 (7:00 発令)、秋季 (19:20 発令)
- ・放射線対応
空間線量測定 (開寮中実施し、数値を掲示する)
食品検査 (学園のゲルマニウム半導体分析装置による)



⑦ エコアンケートの実施

集計結果	1位	2位	3位
はじめに思いつくエコは？	エコバック	ゴミの分別	節電
実践しているエコは？	節電	リサイクル	省エネ
寮でもっと取り組みたいエコは？	エコキャップ	ゴミの分別	節電

アンケートの集計結果を今後の活動に取り入れていきたい。
2017年度エコアンケートより、寮でもっと取り組みたいエコは？において第3位の「グリーンカーテン」について実施し、玄関前フェンスに朝顔を植栽した。次年度は、朝顔に加えフウセンカズラの植栽を予定している。



☆冬季には、フェンスにイルミネーションを取り付けた。

〈冬季の様子〉

■ 環境委員会事務局

● 緑地帯の復活

福島第一原子力発電所事故後、裸地となっていた杜の広場、本館 屋上慎思庵前庭等にクローバーや芝生を張り、緑豊かなキャンパスが復活した。



● 屋上菜園の再開

放射線量が高く、畑の土を撤去したまま7年が経過した屋上菜園に綺麗な土壌を投入し、野菜の栽培を再開した。収穫した野菜は、家庭寮や学生食堂フェリーチェで使用した。



● プロジェクトDへの参加協力

日本環境協会が東日本大震災以降、津波により流失した森林面積を回復させるために活動している「プロジェクトD」に環境委員会、NLS部が全面的に協力している。



● REIF 2018 (福島再生可能エネルギー産業フェア2018)

11月7日、8日の両日、REIF2018へ出展し、本学の太陽光パネルの設置状況やNLS部の活動について展示発表を行った。



■ 開成の杜の樹木生育状況について

開成の杜	面積 (ha)	樹種	本数	植樹年月日	樹高	水質浄化量	CO ₂ 吸収・固定量
鞍手山	1.45	ヒノキ	5,100 本	平成 8 年 5 月	約 14.0 m	592m ³ /年	7 トン/年
石 筵	2.77	ヒノキ	7,000 本	平成 15 年 5 月	約 9.0 m	769m ³ /年	7 トン/年
高土山	1.21	スギ	4,300 本	平成 13 年 10 月	約 16.0 m	565m ³ /年	7 トン/年
安子ヶ島	1.47	ヒノキ	5,000 本	平成 20 年 5 月	約 8.0 m	402m ³ /年	8 トン/年
計	6.90		21,400 本			2,328m ³ /年	29 トン/年



鞍手山



石筵



高土山



安子ヶ島

V-4 緊急事態対応

■ 避難訓練 (福島県沖で大地震が発生し震度 5 強の大地震が 15 秒後に到着する)

福島県沖で大地震が発生し、緊急地震速報装置では、震度 5 強の大地震が 20 秒後に到着する。激しい振動により家政学館 1 階調理実習室より出火したとの想定のもと、①大地震発生時の身の安全確保訓練並びに②出火時の避難訓練 (建屋毎の分散避難) を行った所、短時間 (4 分~ 8 分) で避難完了した。

避難完了後、学長等による講評を行い、解散した。



■ 刺股講習会

福井県で 6 月 26 日に発生した交番襲撃並びに奥田小学校侵入事件を受けて、現役警察官による刺股講習会を開催した。講習会は 2 回に分けて実施し、70 名を超える教職員が受講した。



V-5 郡山女子大学・同短期大学部における地域連携活動

■ 本宮市との包括連携協定締結

平成28(2016)年11月3日に本宮市と人材育成や人材確保、幼児教育や文化、芸術、健康福祉の増進など5項目について包括連携協定を締結し、高齢者福祉、幼児教育分野を中心に継続的な活動を行っている。



いきいき交流事業



本宮市民元氣いきいき
応援プラザ(えばか)にて

■ 葛尾村との包括連携協定締結

平成28(2016)年12月6日に葛尾村と震災からの復興に関する包括連携協定を締結し、六次化商品の開発を継続的に進めるとともに、村内行事へ積極的に参加している。



エゴマ刈取作業



盆踊り

■ 福島さくら農業協同組合との包括連携協定締結

平成28(2016)年度にJA福島さくらと農業の振興や教育及び人材育成に食文化の振興、健康、福祉の振興など5項目について包括連携協定を締結し、相互に緊密に連携し、双方の資源を有効に活用した協働による活動を推進している。平成30(2018)年度にはトマトジュースパッケージデザインの開発、梨選果場の壁画作成等の協力も行われている。



学生・生徒・園児が植えた
稲の刈取作業



梨選果場(郡山市)壁画

■ 小野町との包括連携協定締結

平成29(2017)年8月21日に小野町と子育て、人材育成、健康栄養及び福祉の増進など6項目について包括連携協定を締結し、子育て、健康栄養の分野にて協力を行っている。



おのまちわかばたんけんたいの
素敵な冒険活動風景

■ 古殿町との包括連携協定締結

平成30(2018)年8月27日に古殿町と地域創成、健康栄養・福祉の増進、子育て環境の向上、地域産業の振興、芸能・文化の向上、人材育成・確保6項目について包括連携協定を締結した。具体的に協力内容について検討を進めている。



連携協定締結式

■ 郡山市との事業連携

平成21年3月13日に本学は、郡山市こども総合支援センター「ニコニコ子ども館」実施事業との連携協定を締結し、学生が「ニコニコ子ども館まつり」、ハンドベル演奏等のボランティア活動を継続している。



ニコニコ子ども館まつり



■ 福島民報社との事業提携

平成29(2017)年2月に福島民報社と連携協力協定を締結し、新聞等を活用したキャリア教育の支援、地域課題等に関する共同調査及び研究、人材交流及びインターンシップの実施、教育研究のための新聞記事情報の活用支援等の分野において連携協力を進めている。

■ 大学施設の開放

東日本大震災以降、市内の公共施設が避難所等として使用ができないことを受け、地域貢献の観点から、学園休業日に外部団体の大会・イベント・検定試験会場等として幅広く本学施設の貸し出しをしている。

〈過去3年間の利用者数〉

	2016年	2017年	2018年
利用者数	29,502人	27,721人	24,080人



■ 生涯学習講座

本学では、「学ぶことは生涯の仕業」の理念のもと、地域女性を対象として科目の開放を大学・短期大学と共同で実施している。この生涯学習講座としての科目開放は、平成30(2018)年度で34年目となる。平成30(2018)年度には、前期に16講座が開放され延べ31人が受講し、後期に15講座が開放され延べ33人が受講した。

■ 国際交流特別講座

本学では 21 世紀の国際化に対応するため、英語・中国語・日本語、それぞれのことばを楽しく学ぶことを通して、ことばと文化への理解を深め、コミュニケーション能力を高め、あわせて本学園の国際性の発展を図ることを目的として、平成 14(2002) 年度前期より「国際交流特別講座」を開講している。平成 30 (2018) 年度には前期 20 人、後期 18 人が受講した。

■ KGCサマーリフレッシュプログラム (教員免許状更新講習)

平成 19(2007) 年 6 月の改正教育職員免許法の成立により、平成 21(2009) 年度より教員免許状更新講習制度が開始された。本学では 21(2009) 年度より、KGC サマーリフレッシュプログラム (教員免許状更新講習) を開講している。毎年バラエティに富んだ幅広いプログラムと熱心な本学教員の講義は、免許更新を迎えた教員の多くから、単に知識の再確認に留まらず、改めて学ぶ喜びを体得したと好評を得ている。

平成 30(2018) 年度も、「中高教員向け講座」83 人、「幼稚園教諭向け講座」118 人の合計 201 人が受講した。

■ 地域連携推進室の設置

平成 28 (2016) 年度に、「産学官との連携強化」、「地域活性化」、「施設の一般開放」を推進する窓口として「地域連携推進室」を法人事務局 管財部内に設置して、地域への人的資源の提供や、教育成果を還元するための橋渡しを行っている。

■ 公開講座

平成 30(2018) 年度、一般市民を対象とした市民講座・市民フォーラムが大学・短大併せて 3 回開講された。

なお、食物栄養学科主催の市民フォーラムは、現在までに 15 回実施されている。



市民講座「暮らしの1ページ」

■ 産学連携・受託事業

平成 30(2018) 年度に本大学・短大が関係した産学連携・受託事業は、①福島市旧採進堂酒店主屋・土蔵の国登録有形文化財認定に向けた調査、②国見町における石造建造物・石造技術調査、③山形県旧高島駅舎保存活用計画策定、④福島建設業協会建設現場見学会、⑤国見町石工フェス in 石蔵における展示解説、⑥氷感庫における農林水産物の保存に関する共同研究 (株以輪富)、⑦減塩しょうゆの活用による塩分摂取量低減及び減塩しょうゆの味慣れに関する共同研究 (株キッコーマン)、⑧チャレンジふくしま県民運動における企業社員食堂のヘルシーメニューの開発、⑨百貨店と連携し、店内レストランで学生考案ランチメニューの提供、弁当の提供を実施 (株うすい百貨店)、⑩水未来基金水環境保全活動支援事業における猪苗代湖鬼沼周辺の里山の自然環境観察会、⑪音楽関係学生の自治体を含む地域コンサートへの出演等多岐に亘っている。



旧採進堂酒店調査



石工フェス in 石蔵「石切り場体験」



建設現場見学会



デパート店内レストランでのランチ提供



石工フェス in 石蔵「石蔵ミニコンサート」



クリスマスコンサート ハンドベル演奏

VI. 次年度の取り組み

- (1) エコマインドを持った学生生徒の育成 (eco検定対策講座の開催等)
- (2) 地域貢献 (環境に関するボランティア活動への参加・学園施設の開放等)
- (3) 環境負荷の低減 (主要校舎等のLED化)

Ⅶ. 環境関連法規等一覧及びその遵守状況確認結果

環境関連法規等の遵守状況の確認結果及び違反、訴訟等の有無

環境関係法規類		遵守評価 平成 30 年 3 月		評価 ○×	
		監視及び測定	担当		
1	毒物及び劇物取締法	特定薬品関係管理状態	環境委員会	○	
2	労働安全衛生法	産業医・安全・衛生管理者等	総務部	○	
3	消防法	危険物管理・消防用設備	管財部	○	
4	廃棄物処理法	一般廃棄物分別及び特別管理廃棄物の処理状態など、増改築工事時の産業廃棄物処理	管財部	○	
5	資源有効利用促進法	パソコン・二次電池等	管財部	○	
6	家電リサイクル法	廃棄時確実な引渡し	管財部	○	
7	自動車リサイクル法	廃棄時確実な引渡し	管財部	○	
8	建設リサイクル法	新築・増築・解体工事発生時 元請け業者との契約事項	管財部	○	
9	PCB 処理特措法	郡山市届出・年 1 回確認	管財部	○	
10	フロン排出抑制法	フロン回収手続の処理	管財部	○	
11	水質汚濁防止法	構造等に関する基準遵守・薬品類定期点検	管財部	○	
12	下水道法	定期的な保守点検・清掃	管財部	○	
13	水道法	年 1 回貯水槽清掃・点検	管財部	○	
14	グリーン購入促進法	毎年 3 月頃確認	管財部	○	
15	環境配慮契約法	毎年 3 月頃確認	管財部	○	
16	環境保全活動・環境教育推進法	持続可能な社会・意欲の増進	管財部	○	
17	食品衛生法	営業許可証の確認	管財部	○	
18	省エネ法	エネルギー合理化・自主的	エコアクション 21：環境目標・環境活動計画進捗	環境委員会	○
		トップランナー方式	機器の買替時	管財部	○
19	環境基本法・循環型社会形成推進基本法・温対法・ 文部科学省からの通達	国の施策に協力、温室効果ガスの排出抑制	管財部	○	
20	小型家電リサイクル法	使用済小型電子機器等の排出状況を確認	管財部	○	
21	麻薬及び向精神薬取締法	向精神薬の登録内容、保管管理確認	管財部	○	
22	核原料物質、原子炉の規制に関する法律	核燃料物質（2 種類）の保管、管理確認	管財部	○	
23	PRTR 法	第 1 種、第 2 種、特定化学物質の保管管理確認	管財部	○	
24	放射性物質による環境汚染への対処に関する法律	事故由来放射性物質による汚染された廃棄物の 保管確認	管財部	○	
25	道路交通法	安全運転管理状況確認	管財部	○	

環境関連法規への違反はありません。なお、関係当局より違反等の指摘は昭和 24 年の設立以来ありません。

Ⅷ. 環境活動結果に関する内部監査及び評価

(1) 内部監査

1. 監査対象	学校法人 郡山開成学園における環境活動	
2. 監査実施日	平成 30 年 11 月 27 日(火) 14:00 ~ 15:40	
3. 監査担当者	内部監査委員/影山 彌、水野 時子、学生代表 NLS 部 鈴木 千幸	
4. 監査目的	EA21 更新審査前 内部監査	
5. 監査項目	<ol style="list-style-type: none"> 1. 中間審査時の B 判定指導事項 2 項目の是正措置の実施状況確認 2. 内部監査チェックリスト（環境経営システム）により確認 3. 内部監査チェックリスト（環境活動レポート）により確認 4. 事務局より 2018 年環境活動計画書の各目標の達成状況と主たる環境活動の報告 5. 大学、短大、高校、幼稚園、家庭寮、及び 図書館 各環境委員より各部門における 2018 年の環境活動についてプレゼンテーション 6. NLS 部 学生の郡山市水質調査結果の発表 7. 質疑応答、講評 	
6. 監査講評	監査委員氏名	講評結果
	影山監査委員	各学校、各部門の環境活動が着実に拡充していることがあらためて確認できた。中でも節電、節水への取組を継続している点が地球温暖化防止に繋がって、CO ₂ 排出量削減となる点は、大変素晴らしいことである。本学教育の具現化となる環境活動の実践を環境委員会の一致協力のもと今後も大いに発展させてほしい。
	水野監査委員	各学校の環境委員が中心となり色々な環境活動を実践し、毎年工夫改善を行なっている点が素晴らしい。今後も各環境委員の活動に期待したい。
	NLS 部 鈴木	私も NLS 部員として様々な環境活動を実践しているが、高校や幼稚園等でもこんなに活動していることに驚いた。今後も NLS 部は、環境委員会と協力して環境活動に率先して取り組んでいきたい。
備 考	 	

(2) 代表者による全体の取組状況の評価及び見直しの結果

エコアクション 21（以下 EA21）認証登録制度がスタートした 2004 年 12 月に、教育機関では全国初の認証を受け、今年で 16 年目の取組を迎えるにあたり、教育機関として今後は、SDGs（Sustainable Development Goals / 持続可能な開発目標）を強く意識した取組を推進していかなければならないことから、EA21 河合審査人の指導のもと、環境委員会で十分に検討を行うこと。

2018 年 EA21 の取組は、1. 環境マインドを持った学生・生徒を育て、2. CO₂ 排出量を削減し地球温暖化にブレーキをかけ、3. ごみを出さず、4. 水や紙を大切に使う心を育て、5. 地域から愛される学園として、環境分野におけるボランティア（どんぐりプロジェクト、ごみゼロキャンペーン、Cool Choice、放射線リスクコミュニケーション事業及び、福島再生可能エネルギー産業フェア 2018）に積極的に参加するとともに、古殿町に加えて、本宮市、小野町、葛尾村の各市町村並びに、JA 福島さくらに続き、福島民報社等の県内企業と包括連携協定を締結し、郡山女子大学、同短期大学部、附属高等学校、附属幼稚園において、鋭意諸活動に取り組んでいる事は、評価に値する。

学園関係者（学生、生徒、園児、教職員及び保護者）の意思統一を図り、EA21 の取組の充実発展を確実にを行うこととする。

令和元年 5 月 30 日

学校法人 郡山開成学園 理事長

関 白 修



地球は、わたしたち現世代の人間だけのものではなく、
わたしたちの子どもや孫の世代を含む未来のすべての世代
の生存に対して責任があるということを認識しましょう。

(世代間公平の考え方より)

